

## 平成24年2月定例会一般質問（概要）

平成24年3月7日

[横山 英幸 議員](#)



### 1 幼児教育（就学前教育）

<横山議員>

市町村が地域の状況にあわせて幼児教育推進計画等の策定を行っているとのことだが、現在の推進状況について伺う。

また、小学校との接続も見据えた学習への興味を喚起させる取り組みを他の幼稚園に拡げるなどして、内容の充実を図るべきと考えるが、どうか。

<教育長>

現在、府内すべての市町村において、幼児教育の在り方を示す推進計画等が策定されており、9割を超える幼稚園や保育所で小学校との教育内容の連携が進んでいる。

また、今後は、幼稚園と保育所との合同研修などを通して、特色ある実践を共有していき、小学校との接続を見据えた市町村の取り組みを支援していく。

### 2 職員基本条例における相対評価

<横山議員>

職員基本条例に規定されている相対評価における現段階での検討課題などを教えていただきたい。

<総務部長>

府においては、所属ごとの職員数や業務内容が大きく異なっているため、相対評価における実施単位の設定が大きな課題。

人事評価は、職員の能力や勤務意欲の向上を目的として実施するものであり、相対評価を導入した場合でも、職員のやる気と組織力の向上を図ることが必要。また、評価者が公正な評価を行えるように評価者に対する研修も重要であるとする。

<横山議員>

評価者が過度な重責を負い、公正な評価ができないなどという状況を避けるためにも、職員相互評価が必要と考えるが、具体的な算出の方法など、今後の取り組みなどについて伺う。

<総務部長>

評価にあたっては、評価者の負担を減らすとともに職員の納得性を高めることが課題。また、職場ごとの業務の特性を踏まえることも必要であると認識。

来年度に相対評価の試行実施を行う中で、これらの課題を解決し、より適切な制度設計ができるよう努めたい。

### 3 大阪のグランドデザイン（新大阪新都心構想）

<横山議員>

グランドデザイン・大阪における「大阪・新大阪エリア」については、そのポテンシャルを最大限活用しながら、大阪の都市戦略を描くべきと考えるが、どうか。



<松井知事>

グランドデザイン・大阪は、大都市・大阪の成長や、魅力向上に向けて、蓄積されたインフラや都市拠点のポテンシャルを最大限に活用し、2050年を目指して、大阪の都市構造を大胆に転換していくものとして策定予定。

今後、3月末の中間とりまとめをもとに、府議会をはじめ、広く府民、企業から、ご提案、ご意見をいただき、6月には取りまとめる。

<横山議員>

新大阪駅は大阪の玄関口。みどりが少ない大阪の印象を変えるためにも、新大阪駅周辺を含む一帯をみどりで彩り、魅力を高めていくべきであると考えているが、どうか。

さらに、新大阪周辺だけでなく、キタやミナミなど、大阪を代表するエリアで、みどりを増やすべき。ターゲットを絞って取り組むことが必要。民間の力を借りることも重要であり、都心部でのみどりづくりに、府市が連携して取り組むべきと考えているが、併せて伺う。

<松井知事>

新大阪周辺は、多くの人が行き交う玄関口であり、大阪全体のイメージの向上に向けて、みどりの充実が必要と認識。

このため、新大阪駅南側の淀川通を「みどりの風促進区域」に指定し、みどりの軸づくりを進めるほか、新大阪駅の出入口に「ウエルカムガーデン新大阪」として、みどりの空間づくりに着手している。

今後、府市一体となって共通の戦略を策定し、企業の協力も得ながら、新大阪をはじめ、多くの府民が集まる都市拠点を中心に、実感できるみどりづくりに取り組んでいく。